



亘 悠哉 Watari Yuya  
野生動物研究領域

南西諸島や小笠原諸島など日本の亜熱帯地域の島々は、他ではみられない数多くの生き物たちが生息する生き物の楽園です。しかし、楽園の多くは今、人間が持ち込んだ外来種が席卷する危機的状況に陥っています。

私が学生の2002年ごろから調査地にしてきた奄美大島には、アマミノクロウサギなどの貴重な生き物が生息しています。島にはもともと天敵となる肉食哺乳類が存在しなかったため、島の生き物たちは警戒心を持たずのんびり暮らしてきました。

この島に人間が外来種のマングースとネコを持ち込んだのです。警戒心を持たない島の生き物たちは、あらたな天敵に簡単に食べられてしまいます。たとえば、アマミノクロウサギは、子供用の巣穴を準備して子育てをしますが、その巣穴をマングースは簡単に見つけ子供を襲って

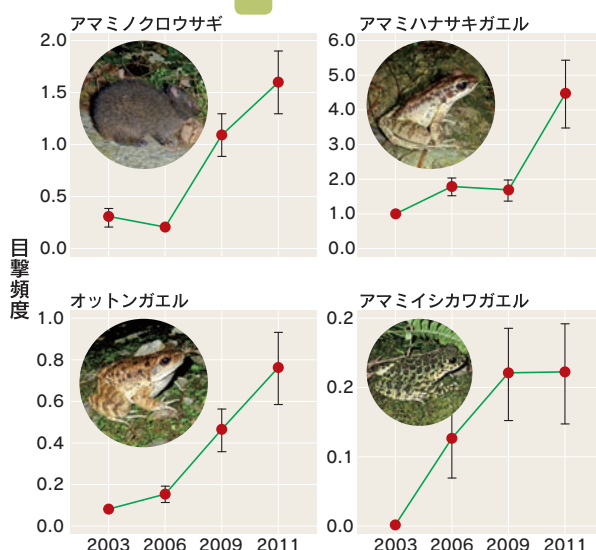


## 南の島の希少種と外来種の話 9割の人が知らない惨状

食べてしまいます。その結果、アマミノクロウサギの分布域は大幅に減ってしまいました。孤立して残存した場所では、遺伝的な多様性も低下してしまいました(▼P.16~17)。幸いなことにマングース対策のおかげでアマミノクロウサギをはじめさまざまな島の生き物たちが回復してきました(図)。ところが、回復したアマミノクロウサギをネコが食べ始めるという新たな問題も起こっています。

こうした事態は日本各地の島で起きていますが、残念なことにあまり知られていません。問題の解決のためにも、まずは多くの人がこの現状を知ることが大切です。

(2018年5月26日開催講座より)



### 森林講座のお知らせ

7月19日(金曜日)

「殺して活かす、ニホンジカ  
—捕獲個体から得られるアレコレ—」  
松浦 友紀子(北海道支所)

9月13日(金曜日)

「火に負けない木づかい」  
上川 大輔(木材改質研究領域)

10月11日(金曜日)

「放射能に汚染されたシイタケ  
—原木林の利用再開に向けて—」  
平出 政和(きのこ・森林微生物研究領域)

11月15日(金曜日)

「樹木のタネの成り年の不思議」  
韓 慶民(植物生態研究領域)

12月6日(金曜日)

「森林スポーツの現状と課題」  
平野 悠一郎(林業経営・政策研究領域)

1月17日(金曜日)

「木を発酵させて造る、  
香り豊かなアルコール  
—世界初の「木のお酒」を目指して—」  
大塚 祐一郎(森林資源化学研究領域)

2月14日(金曜日)

「サクラ等を食い荒らす外来昆虫  
クビアカツヤカミキリの生態と防除」  
加賀谷 悦子(森林昆虫研究領域)

3月6日(金曜日)

「—196℃で樹木を保存する」  
遠藤 圭太(林木育種センター)

お申込の受付は各講座開催日の前月の1日から。

受付は先着順で、講座開催日の1週間前が締切となります。

ご希望の講座名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加希望者数をご記入の上、往復はがき、または電子メールでお申し込みください。

なお、それぞれのお申込1通に対し、1講座3名までの受付とさせていただきます。

#### ◆お問い合わせ

〒193-0843 東京都八王子市甘里町1833-81  
多摩森林科学園  
電話番号:042-661-1121  
Email: shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp



◀電子メール送付先  
二次元バーコード

会場●多摩森林科学園 森の科学館

時間●13時15分～15時

受講料●無料 (ただし、入園料として大人300円、  
子供50円必要となります)